

SECTION
013段階に文字のサイズを
変化させるボタン

Internet Explorer

6 7 8

Firefox Safari

2 3
以上 以上

制作・文：関口直樹（ラナデザインアソシエイツ）

「標準」、「大」、「最大」の3段階に文字のサイズを変化させるボタンを作成します。さらにCookieに記憶することによって、次に同じサイトに来た際もサイズが維持された状態となるようにしましょう。

制作のポイント

- ・body要素のクラス名の切り替え
- ・JavaScript無効環境に対応
- ・ライブラリでスクリプトを効率化

使用のおもなコード/ライブラリ

jQuery v1.3.2
http://jquery.com/
jquery.cookie.js v1.0
http://plugins.jquery.com/project/cookie

TECHNIC 1 文字サイズ切り替えボタンの作成



Webページの本文サイズを「標準」、「大」、「最大」の3段階で切り替えることができるボタンを作成します。

TECHNIC 3 JavaScript オフの場合の配慮



ユーザーの環境によってはJavaScriptが利用できないことも想定し、JavaScriptがオフの場合には文字サイズを切り替えるボタンは表示されないようにします。

TECHNIC 2 Cookieの利用



ユーザーが選択した文字サイズはCookieを利用してローカルマシンに保存され、次回アクセス時には最初から選択した文字サイズで表示されるようにします。

ライブラリの読み込み

01 このスクリプトではjQueryとjquery.cookie.jsという2つのJavaScriptライブラリを使用します。そのため1-1のように、HTMLドキュメントのhead要素内にscript要素を記述して、2つのライブラリを読み込ませます。

1-1 HTML

```
<script type="text/javascript" src="jquery.js"></script>
<script type="text/javascript" src="jquery.cookie.js"></script>
```

MEMO

現在、jQueryはJavaScriptライブラリの主役格といってもよいくらいのメジャーな存在です。CSSのセレクタと同様の書き方で要素の取得が簡単にできることや、ブラウザごとの（特にInternet Explorerの）実装の違い吸収してくれることなどに加え、ネイティブのJavaScriptでは実装

されていない機能も提供してくれます。また、ネイティブのJavaScriptでは7～8行に及んでしまうコードも、jQueryを利用すれば1行で書けてしまうことすらあります。つまり、短く簡潔なコードでスクリプトを記述することができるようになります。

HTML + CSSでのボタンの記述

02 まずは表示するWebページ用のHTMLを静的に記述してしまい、CSSで整形（レイアウトデザイン）していきます。2-1は、文字サイズを変更するための「標準」、「大」、「最大」ボタンを記述している部分です。「onclick="fontSize.setStyle('M~XL');」という記述は、マウスをクリ

ックした際にそれぞれM、L、XLという引数を渡してfontSize.setStyle関数を実行する、という意味です。別途作成するJavaScriptファイルに記述するfontSize.setStyle関数は、文字のサイズを変化させる処理を実行するもので、処理内容は05～12で解説します。

また「return false」はブラウザのデフォルトの挙動をキャンセルするために記述しています。これを記述しない場合、fontSize.setStyle関数が実行されると同時に、href属性の値となるURL（ここでは「#」という空のアンカー）にジャンプしてしまいます。

2-1 HTML

```
<div id="fontsize-change">
  <dl>
    <dt>文字サイズを変更</dt>
    <dd class="m"><a href="#" onclick="fontSize.setStyle('M'); return false;">標準</a></dd>
    <dd class="l"><a href="#" onclick="fontSize.setStyle('L'); return false;">大</a></dd>
    <dd class="xl"><a href="#" onclick="fontSize.setStyle('XL'); return false;">最大</a></dd>
  </dl>
</div>
```

TIPS

ここではhref属性の値に「#」を設定し、onclick属性でスクリプトを呼び出していますが、onclickなどのイベント属性を使わずにhref属性の値に直接スクリプトを記述する方法もあります。

href="javascript:スクリプトの内容"これはJavaScript URLと呼ばれる記法で、URLにジャンプする代わりにJavaScript

を実行します。ただし、JavaScript URLの記法では実行結果に値が返らないようにしなければなりません。値が返ってくる記述をした場合、ページ自体が遷移してしまいます。また、onclickイベントの場合と異なり、JavaScript URLではブラウザのデフォルトの挙動をキャンセルする必要はありません。